

第2学年普通科課題研究Ⅰ フットパス班報告

植木フットパス

～take the first step～

フットパス3A班

3組	14番	水田	翔吾
	15番	森下	直輝
	23番	岡村	乃絵
	29番	塩田	彩乃
	30番	下徳邊	こころ
	37番	松田	光里

1. フットパスについて

フットパスとは、イギリスが発祥とされ、古い町並みや田園、自然などの風景を楽しみながら歩く（フット）ことができる小道（パス）のことである。最初は大地主が囲い込んでいた私有地の中を、国民が歩くことができるように主張して通行権を獲得しようという運動が始まりであった。

2. コース選定の理由

私たちは、去年の先輩方が行ったフットパスコースをもとに、前例があれば、コースの選定や、作業がスムーズに進み、なおかつ、より良いコースをつくれるのではないかと、また、植木地区は自然やお寺・神社が多い地域なのでフットパスのコースには適しているのではないかと考え、植木地区をフットパスコースの対象地区とすることを決めた。

3. 現状

まず、植木地区の基本情報として、人口約4789人、面積約5km²、世帯数約1877世帯であり、直方市のほかの地区と比べると、大きいほうの地域の部類に入ると言える。

次に、植木地区の現状についてだ。植木地区は、少子高齢化が進んでおり、人口が減少傾向にある（図1参照）。また、それにより、過疎化が進んでいる地域である。

私たちが班員たちだけで植木地区へ何度か行ったとき、時間帯が夕方というのもあったからかもしれないが、車通りなども少なく、とても賑わっている地域というよりは、むしろ、閑静な住宅街というような印象を受けた。さらに、お寺や神社は多くあるが、コンビニなどの店の数や、特徴的なものが少ないと感じた。

また、4年に1度筑前植木岡分流大名行列という規模の大きい祭りが開催されている。この祭りは明治2年に岡分地区の人々が御神幸祭の際に大名行列を再現したのが始まりで、参加者は武士などに扮して参加するという。また、使われている道具のほとんどが明治時代

のものらしい。さらに、直方市にある県指定の文化財の12個のうち4個（大公孫樹、植木三申踊など）が植木地区にあるのだという。

【図1】 植木地区の人口の推移

	平成12年	平成17年	平成22年
男性	2417人	2346人	2235人
女性	2756人	2677人	2554人
総数	5173人	5023人	4789人

(city.nogata.fukuoka.jp)

4. 背景

植木地区の人口が減少している背景には、主に4つの原因があると考ええる。

1つ目は、転出と転入の差だ。平成22年度から平成26年度にかけて、どの年においても転出数が転入数を上回っているという結果が報告されている。近年の植木地区の人口は、このことからすると、転出と転入の差は人口減少に関わっていると言っていいだろう。

2つ目は、認知度についてだ。これは、報告としてあるわけではないが、私は植木地区単体での認知度はそう高くないのではないかと考えている。なぜそう考えるかという点、周囲から植木地区の話はあまり聞かないし、大型ショッピングモールなどがある地域の方の話題を聞くことが多いからだ。認知度が低いゆえ、転入者が伸び悩み、人口が増加しにくいのではないかと思い、認知度の低さが人口減少の原因の1つだと考えている。

3つ目は、労働環境だ。「現状」に書いたとおり、私たちが植木地区を歩いた時、とても家が多く、コンビニやスーパーなどの店が少ないという印象を受けた。私が考えるに、店が少ないことで、働く場所も少なくなり、働く場所を求めて、都会に出て、職場への移動時間短縮のため、その近くに住むということも人口流出の原因として考えられ、人口の減少に関係していると考えられる。

4つ目は、生活の利便性だ。これは、3つ目に書いたような職場のこともあるが、その他にも様々な場所へのアクセスのよさや、大型ショッピングモールなどがある場所の方が生活的に便利であり、また、住みやすいや魅力的だと考え、人が移住する可能性もあり、これも人口減少の原因になりうるだろう。

5. 提案

私たちは、フットパスの基本である「自然や古い町並みを楽しみながら歩く」というところに、植木地区の魅力である自然や歴史・文化を多く取り入れたフットパスコースを提案したいと思う。このようなコースを提案した理由は、子どもと大人の両者に新たな発見や癒しを少しでも届けることができるのではないかと考えたからである。どういうことかという

と、まず、近年の子どもたちは、ゲームやテレビ、携帯電話の普及により、外で遊ぶことが少なくなっている傾向にある。そのような状況の中で、今回のフットパスを通して、外で遊ぶことの楽しさや地域の魅力を新たに発見することがあるということである。また、大人も日々、仕事などの慌ただしい日常のなかで、自然に触れる機会はおろか、自然を意識する機会がそう多くないと思う。そんな大人たちに日常から離れられ、少しでもくつろぐことができる時間を提供できるのではないかということである。

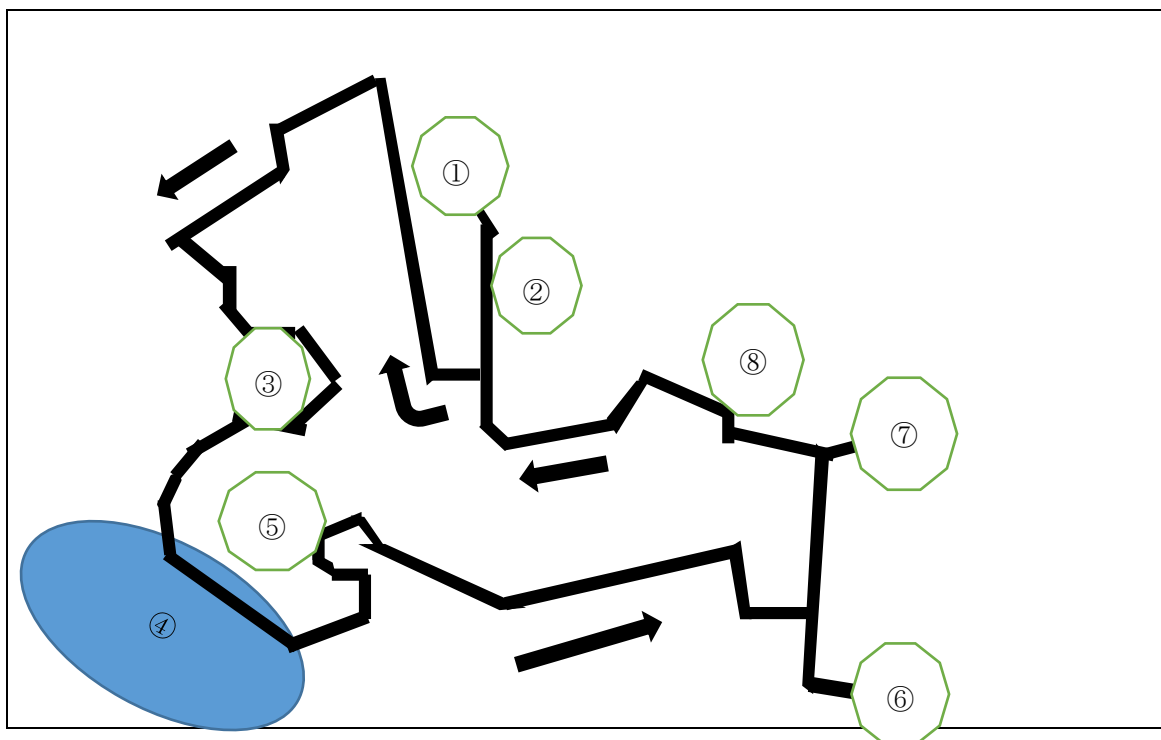
このコースの魅力としては、自然や町並みを楽しむことができるのはもちろんのこと、高い場所からの景色や、地域の方々と近い距離で接することができるという点だろう。また、自動車の通行量に関して、前半のコースは車通りがすこしあるが、後半のコースはほとんどなく、コース全体としては比較的車通りは少なく、安全にフットパスを行うことができるという点もあるだろう。

私がこのコースが成功するだろうと思った根拠としては、植木地区の特徴（自然・お寺・神社など）を多く取り入れたところにある。このようにすることによって、地域の方がフットパスに参加したとき、より地域を身近に感じてもらえるのではないかと考えたからである。また、植木地区以外の方が参加した時に、短い時間で植木地区のことを知ってもらえるのではないかと考えたからである。

以上のことより植木地区とそれ以外の地域の方の両者にメリットがあると考え、このフットパスコースを提案したいと思う。

6. 詳細

【図2】フットパスコース



今回コースは植木地区を一周するようなかたちで、約3kmの道のりを2時間程度かけて歩くコースだ。

まず、筑前植木駅(図中①)をフットパスのスタート地点とする。ここをスタート地点とする理由は、植木地区のなかでもわかりやすい場所にあり、集合地点として適していると思うからだ。また、フットパス参加者の方が電車で植木地区に来たとき、移動する必要がなくなるからだ。

次に、筑前植木駅から50mほど歩いたところにある御山神社(図中②)だ。ここには「植木」という地名発祥にもかかわる古い歴史が残されている。次に、直接③に行くのではなく、少し遠回りをして③へ行く。遠回りする理由は、住宅の多い植木地区の中で、その道は森や畑が多く、小径(こみち)というのにふさわしいような道であり、また、ここにも歴史に関する場所があるからだ。そして善覚寺(図中③)に行く。そこからまた少し歩くと牟田池(図中④)が見えてくる。よく晴れた日にこの池を見ると水面が輝いており、とても美しく見えた。そして次は日吉神社(図中⑤)に行く。この神社は高いところにあり、とても良い景色を見ることができる。また、晴れた日には福知山も見ることができる。またしばらく歩くと次は真如寺(図中⑥)につく。ここには徳川家の家紋があり、深い関わりがあるらしい。そして次は植木地区の最大のシンボルであるだろう大公孫樹(おおいちょう)(図中⑦)だ。この木は犬鳴川左岸にあり、樹齢は1000年と推定されている。江戸時代には筑豊炭田の石炭を運搬していた船の船頭たちが目印にしていた名木だ。福岡県指定文化財であり、天然記念物に指定されている。最後は本横公民館だ。ここには植木地区の歴史がたくさん残されている。ここで昼食などの休憩をとる。そして、また筑前植木駅に戻ってき、解散する。以上がフットパスコースの詳細である。

7. フットパス全国大会

平成29年11月11日に植木地区でフットパスの全国大会が開かれ、私たちの班もこれに参加した。コースは北九州市立大学の方々がおおかたのコースを提案し、それを地域の方々「こちらの方にも面白いものがある」というような意見を出し、共同してつくったコースを歩いた。私はフットパスについて詳しく知らなかったため、全国大会が行なわれているほど大きなものとは知らずとても驚いた。また、参加者の中には鳥取県や北海道から参加している方などがおり、それにも大変驚かされた。全国大会に参加して最初に思ったことは、私たちが知っている植木地区の雰囲気と違っていたということである。今までは学校や部活があり、夕方近くにしか植木地区を歩くことができなかつたが、今回は朝から歩くことができ、以前歩いたことのある道も違う道のように感じられた。また、地域の方々の案内で今回のコースを歩いたことで、インターネットなどで検索しても該当しないような詳しい内容のお話をたくさん聞くことができた。それだけでなく、地域の方々のつながりの深さというものを感じた。なぜかという、フットパス実施中に案内係りである地域の方が「調子

はどう？」というような気軽な感じで店の方と話していたからだ。

私は鳥取県から参加されていた方とお互いの地域のことなどを話しながらゆっくり歩いていたが、のちに考えると、このようなふれあいもフットパスならではだと感じた。さらに、私は、自ら積極的に参加者に話しかけ、お互いに楽しそうに話しながら歩いている姿を見て、大学生の方々のコミュニケーション能力の高さというのにも驚かされた。時間の都合上訪れることができなかった場所もあったが、私自身とても充実した時間を過ごすことができたと思う。今回の全国大会を通して、地域の方々のおかげで植木地区の魅力を改めて感じることができ、また、フットパスとはどのようなものであるかということも学んだ。

8. 未解決問題

今回私たちが提案するフットパスコースについて解決しておかなければならない問題がいくつかある。

1つ目は、植木地区に住んでいる方々の協力が必要ということだ。協力が必要といっても何かを準備してもらおうというようなことではない。「現状」に書いたとおり、植木地区は住宅街であり、一般の民家が多い。だから、地域の方々の理解というものが必要となってくる。

2つ目は、筑前植木駅の駐車場が少々狭いということだ。コースの開始地点は筑前植木駅ということにしており、駅まで電車や徒歩のほか、車でくる人もいるだろう。車できた人が駐車するスペースがなかったら、良い気分でもフットパスに参加できないだろう。

3つ目は、道路の整備状況だ。コースの中にはところどころ歩行者用信号がない場所もある。植木地区の車通りはとて多いわけではないのでとても危険ということはないと思うが、より安全にフットパスを行うならば、信号は必要になってくるのではないかと思う。道路整備については、もう1つ、解決すべきというより討論すべきことがある。それは、砂利や倒れかけた木をどうするかということだ。コースの中に上のような状況の小径（こみち）がある。これも信号の件と同様に、整備されていないから危険というほどのものではなく、より安全に行うには整備しておいたほうが良いというものだ。しかし、このような状況の方がフットパスらしいというような意見もあるだろう。よってこのことは討論すべきことだと思う。

9. 感想

私たちはこのように課題研究としてフットパスを選択していなければ、この先もずっとフットパスというものを知らなかったかもしれなかったし、植木地区について詳しく知らずともしなかっただろう。植木地区について調べたり、実際に歩いたりしていろいろとたいへんなこともあったが、やはりやってよかったと思う。この活動を行うにあたりたくさんの方のお世話になったと思うし、とても感謝をしている。また、私自身、大学生の方々のコミュニケーション能力や、地域の方々のつながりの強さなど勉強になることがとても多くあ

り、今後の生活のどこかで活用できるようにしたいと感じた。生活の都合上、フットパスに多く参加するということにはできないかもしれないが、普段、歩いている時に地域の魅力などを考えながら歩いてみるのもいいのではないかと思う。この活動を通してイメージだけや先入観で物事を判断するのは良くないと改めて感じられた。私たちの1番の目的は、「フットパスを通して植木地区の魅力を他の地区の人に知ってもらいたい」ということだ。しかし、欲を言えば、魅力を知ってもらうだけではなく、人口減少防止の契機、また、人口増加の契機になればよいなとも思っている。

以上が SGH 課題研究 フットパス班 ～植木地区～ の報告書である。

年間スケジュール

7月；コース選定

8月；コース選定、第1回植木地区徒歩

9月；第2回植木地区徒歩

10月；第3回植木地区徒歩

11月；フィールドワーク、フットパス全国大会
パワーポイント並びに報告書 作成開始